3 今月の青果物

かんしょ

主要産地のかんしょの入荷量（東京都中央卸売市場）

産地	2023年度10月入荷量	2023年度10月シェア率
千葉	1,641 t	52.0 %
茨城	1,167 t	37.0 %
徳島	259 t	8.2 %
鹿児島	46 t	1.4 %

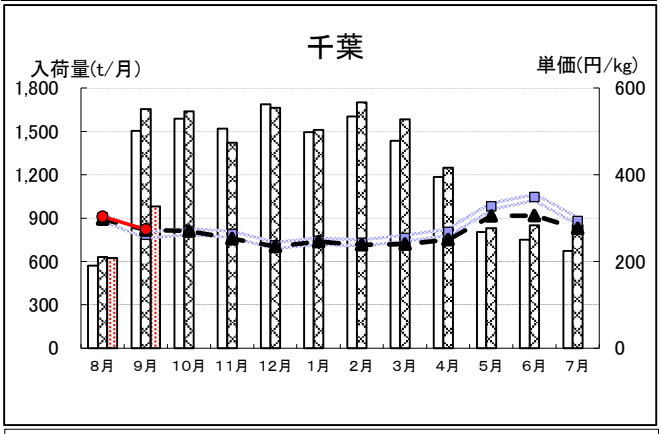
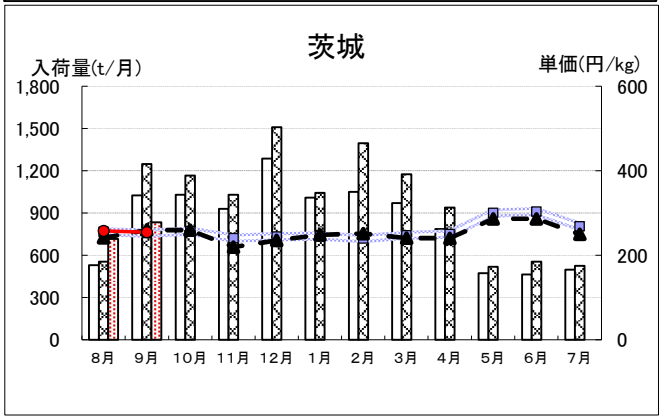
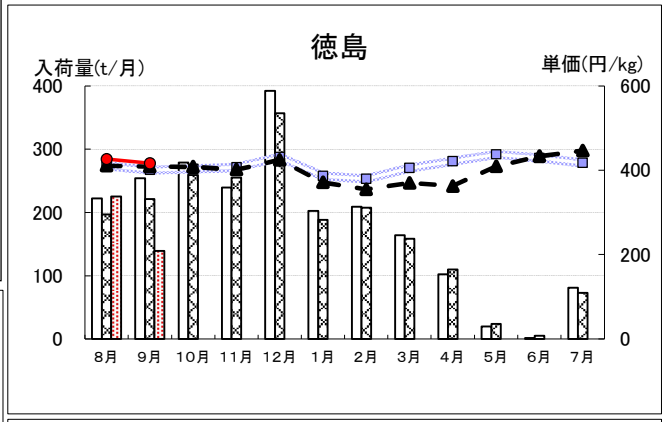
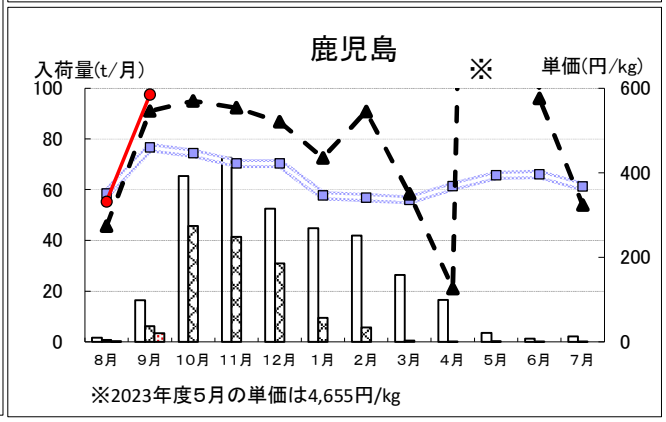
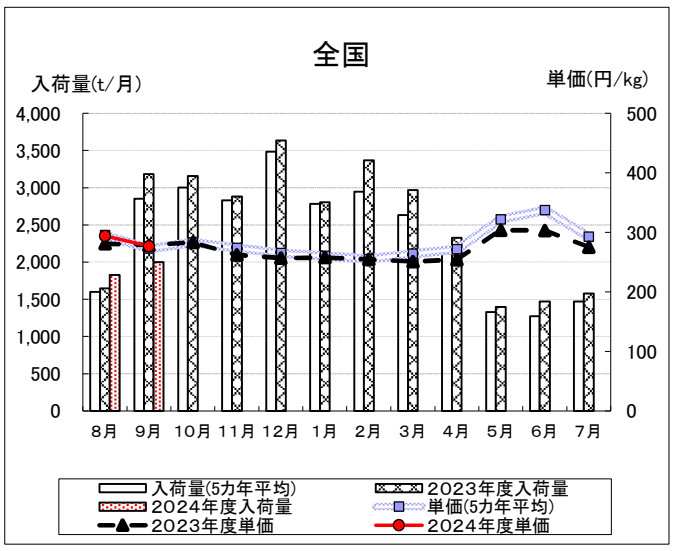
10月入荷予測	3,000t（前年比95.1%、平年比99.8%）		
10月価格予測	283円（前年比99.9%、平年比100.0%）		
10月市況予測	（上旬）保合 ⇒	（中旬）保合 ⇒	（下旬）保合 ⇒

今後の競合産地の動向は?

かんしょ（さつまいも）の東京都中央卸売市場の年間入荷量シェアは、1位の千葉県（過去5カ年平均14,819トン、52%）と2位の茨城県（同10,059トン、35%）で全体の約9割を占めています。令和3年産の用途別構成は、青果用51%、干し芋等加工食品用18%、アルコール用18%、でん粉原料用11%となっており（農林水産省調べ）、市場に入荷するものは主に青果用です。

かんしょは昨今の焼き芋ブーム等により消費が伸びており、6年連続で野菜の売れ筋1位（日本農業新聞調べ）に輝いたところですが、「サツマイモ基腐（もとぐされ）病」が平成30年度に国内で初確認された後、各地で猛威を振るい、他県ではわずか数年で約半分まで規模が縮小してしまった産地もあります。そのため、各産地、菌を「持ち込まない」「増やさない」「残さない」ために細心の注意を払っています。

西日本の早い産地では5月下旬から収穫が始まり、関東では8月～11月が収穫の目安です。いもは9℃以下の低温で腐敗し、また、乾燥条件では水分が抜けてしなびるため、年明け以降の出荷には適切な温湿度の下での貯蔵が必要です。特に、先進産地や大規模農家は、厳寒期やその後の気温上昇に対応できる定温貯蔵庫を整備し、高単価となる5～8月も含めた周年出荷に取り組んでいます。

定温貯蔵庫導入による恩恵は他にもあり、品質の安定により出荷作業を分散させ、限られた収穫期間の中で、より収穫に時間を割けるようになります。そのため、規模拡大の一助にもなり、県としても定温貯蔵庫の導入を支援しています。

※入荷量及び単価は2024年度9月中旬まで集計。